

多摩大学経営情報学部「学生会」 Tama University Student Council

多摩大学経営情報学部学生会 初代会長挨拶

多摩大学経営情報学部 学生会 初代会長 木下 周

「学生会」という組織が、本年度から立ち上がり、初代会長に就任しました。私事ですが、それに伴い、多くの案件が私たち学生自身に任せられるようになり、私としては大変になる経験をさせてもらっております。本学生会の設立の目的というのは、多摩大学に所属するすべての学生の活動の発展や、地域社会に対する関わりを通じて、多摩大学全体をより活性化していくことにあります。要は、学生会を通じて、もっとみんなで多摩大学を盛り上げていこうという会です。

具体的には、これまで多摩大学内における各団体は、各団体内の学生同士、あるいはOBやOG間での交流は盛んでしたが、各団体間での横断的な交流、情報交換の場がありませんでした。例えば、サークル連合に所属する各サークルと、学園祭である雲雀祭の実行委員会、今活躍が目覚ましいフットサル部に代表される体育会、これらが一堂に会し、情報を共有するというような機会はこれまで設けられておりませんでした。学生会では、これらの組織をとりまとめ、連絡会を毎月行い、積極的な情報共有に努めております。

他方、多摩大学の学生の中には、サークルなどの団体に所属していない学生もおります。そういう学生は、団体に所属している学生に比べ、どうしても大学内でイベントに接する機会や、交流の輪を広げる機会が少なくなってしまいます。そうすると、大学との関係も次第に疎遠になってしまいます。学生会はそうした学生にも、単発的なイベントを企画したり、あるいは企画の支援をすることで、大学での学生間同士での交流の活発化や大学に関わるという意識を促していきたいと考えております。

他にも、各団体における会計制度の見直しや、グローバルスタディーズ学部のあるSGS（湘南キャンパス学生会）との連携、KTC（Keep Tama university Clean）に代表される学生主体の活動をさらにより発展的なものとするべく活動しております。また、本学生会は今年から立ち上がったため、学生会規約を作り、組織の基盤固めを行い、今後も安定した継続的な運用ができるようにどのように組織を組み立てたらよいかということを実行錯誤しながらも、取り組んでいる最中です。

認知度も、まだあまり高くなく、この記事を見て初めて、こんな組織なんてあるんだと思われる方もいるのではないかと思います。つきましては、皆様に、これを機に学生会という組織を知ってもらい、もっと活用してもらいたいです。何か企画を思い立った際は、遠慮なく学生会室まで持ち込んでください。学生会は、多摩大学に所属する学生皆様が参画しないことには、おそらくずっと小さな組織のままです。皆様の協力あってこそ、本学生会は成り立つものと考えております。どうか、厚いご支援、ご協力をお願い申し上げます。

役員紹介

会長

木下 周 (3年)
サザンクロス
(演劇サークル)

副会長

角野 匡子 (2年)
TAMA-X
(オールラウンドサークル)

書記

金山 峻大 (3年)

会計

角川 勝由貴 (3年)
ばどわいざー
(パトミントンサークル)

会計

伊藤 公亮 (2年)

TCU会長

芝 祐紀 (3年)
音楽連合
(軽音楽サークル)

学園祭実行委員長

梅田 裕介 (3年)

体育会

堀田 浩平 (4年)
フットサル部

体育会

杉山 央明 (3年)
フットサル部



活動報告

学生会での一年間の活動内容

- 【4月】 新入生歓迎会・サークル勧誘会
- 【7月】 7月期会計報告
- 【9月】 9月期会計報告
- 【10月】 学園祭「雲雀祭」開催
- 【12月】 学生会執行部会長選挙
クリスマスイベント

【1月】 学生会執行部代替え

【3月】 3月期会計報告

その他活動実施内容

- ・学生会主催イベントの実施
- ・毎週木曜日のKTC活動の実施
- ・ゼミや個人単位の支援の実施
- ・女子学生の入学率向上支援の実施



打ち合わせの風景

留学生 メッセージ



彩藤 ゼミ

Hello my name is GARBAA Romain

Hello my name is GARBAA Romain, I am French student, I'm 24 years and I study the 3DCG Real Time. I been Lucked, 7 month ago, I was offered an internship in JAPAN, at the University of TAMA, in the seminar Saito T Sensei to work with seminary students, on an augmented reality project called "AR ASAKUSA MAP." For French people, Japan is a very distant country, at the end of the world, a lot imagined through the images, photos, stories, movies and animations... A cultural gap of 9.714.482 km, about eighteen hour plane flight. A little difficult at first time even just in English and Japanese speaking very little, a difference of culture is a lot feel sometimes pop or sometimes very funny. but I'm used me as fast, help me from my fellow seminars. During my internship I have met a lot of people that are whether in the seminar and in other, In class, in the hallways or outside of the university, good meeting, teachers and students that I will not never forget and I hope to revisit maybe one day "the world is small" I had a great time in Japan and in university, I want to thanks all the people, I have met with whom I have discussed and become friends, as well as teachers and university staff.

どうもありがとうございます !!!

GARBAA Romain



出原 ゼミ

In this short text, I will share my impression of my internship in Tama and more generally of my life in Japan.

I have to say, when I first got the mail saying that I was accepted for this internship in Japan, I wasn't only enthusiastic. In fact, I was really nervous because I would need to go and live for 2 months and a half in a completely different country than my own.

But in the end, everything ran smoothly. The place we lived was great and the food was excellent. Japanese food is really delicious and you always feel like eating more. I particularly loved gyudon and sukiyaki.

Japan is really hot, almost 10 degrees more than in France but we still could go out so it was okay. We visited plenty of famous place like Shinjuku, Shibuya, Odaiba or Asakusa that were really impressive and plenty of really good restaurant.

All the people in Tama University were really nice and interesting and there were plenty of events in the university and in the seminar so it was fun every day. And so I thank everyone for all the things they have done for us.

Ravindu SOMAWANSA

(和訳)

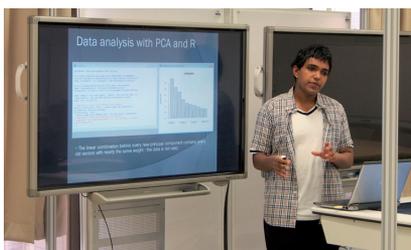
この短い文章で、私は多摩大学でのインターンシップと日本での生活についての印象をお話します。

日本でのインターンシップに選ばれたという連絡を受けたとき、私は大喜びしましたが、それだけではありませんでした。実際のところ、全く違う国に行って二ヶ月半も過ごすということは、大変不安でした。

しかし、終わってみるとすべてが順調に行きました。部屋は快適で、食事は素晴らしかったです。日本の食事は大変おいしくて、いつも食べ過ぎてしまいそうでした。特に、牛丼とすき焼きが大好きです。

日本は本当に暑いですが、それでも外出できるので問題ありません。新宿、渋谷、お台場、浅草など、いろいろな場所に行きましたが、どこも印象的で、しかもおいしいお店がいっぱいでした。

多摩大学の皆さんはとても親切で楽しく、大学やゼミでのイベントがたくさんあって、毎日が楽しかったです。皆様のご招待とご厚遇に感謝いたします。



出原 ゼミ

So let's talk about my stay in japan and my study in Tama University during summer 2013. First of all I would like to say that japan summer is very hot, but I enjoyed it a lot. So, about my study I was already used to using the Kinect and making this project was really interesting and allow me to work with Unity3D that I had never used. It really was a great project and the people I was working with were very nice and helpful. During my stay I was amazed by how the students are presents in school sometimes coming even a Saturday or a Sunday for sports and school events.

I have also visiting a lot of place during those two months like the emperor garden or Mount Fuji, and I keep a lot of great memories of those short journey. Mount Fuji was especially great with some very beautiful landscape and a beautiful sunset.

Japanese people are really great and helpful, some stores are open the whole day, Japanese lunch boxes are very nice and there are multiple kind of. Although I do not like sea food, I must admit that I really enjoyed Japanese food.

To conclude I have really enjoyed my stay in Japan, in a cultural and professional way.

Guillaume DIJOUX

(和訳)

2013年の多摩大学での研究と日本の滞在についてお話します。まず、とにかく日本の夏は大変暑かったです。私は、この暑さを十分楽しみました。研究では、Kinectは使い慣れていましたが、Unity3Dは初めてだったので、このプロジェクトは大変興味深いものでした。これは素晴らしいプロジェクトで、一緒に取り組んだ人たちは大変よくしてくれました。滞在中に驚いたことは、学生がスポーツやイベントなどで大学によくいることです。ときには、土曜日や日曜日にも！

2ヶ月の間に、皇居や富士山などにも行ってきました。短い旅行でしたが、いい思い出です。特に富士山は、美しい風景や夕暮れなどで素晴らしかったです。

日本では、みんな大変素敵で親切で、24時間開いているお店があり、お弁当にはいろいろな種類があっていい感じです。私はシーフードが食べられませんが、それでも日本の食事を満喫しました。

私は、文化面でも、研究面でも、本当に日本の滞在を楽しむことができました。



〈プロジェクトゼミ〉

メディア実践論の制作現場から

秋田県大曲発・伝えたい!大輪の花火と「ふるさと」のころ
～故郷の「ハレ」の日、「ケ」の日～

経営情報学部 2年 佐々木 晨

大輪の華が夜空に咲き、ドーンという破裂音がこだまのように響き渡る。そして見る人の歓声が湧き起る。夏の夜の花火はどうしてこんなに人の心を感動させるのだろうか。

花火大会は全国で数えきれないほどひらかれるが「大曲の花火」は特別だ。全国の花火師が腕を競う真剣勝負の花火大会なのだ。決められた規格の花火で競う「課題玉」と「自由玉」、さらに音楽とのコラボレーションなど趣向を凝らした「創造花火」の一大ページントが繰り広げられる。それだけではなく。花火といえば夜というのが通り相場だがここでは「昼花火の部」もある。

今年も全国から76万人の人が訪れた。会場の大曲のある秋田県大曲市の人口が8万8千人余りだから、市の人口がこの日一日で一挙に10倍にも膨らむ。大曲にとって「いつもではない、特別な一日」になるのだ。そんな大曲の「ハレの日」の表情をとらえて作品を制作してみようと思いついた。

私は、3歳の頃から現在まで、ほとんどの夏休みを秋田県増田町（現在の横手市）と大曲市（現在は大曲市）で過ごしてきた。だから「ふるさと」と言っても過言ではない場所なのだ。記憶では、子供のころは見渡す限り田畑が広がるばかりだったが、時代の移り変わりのなかで田畑は様々な工場や会社の手に渡り、ビルの立ち並ぶ風景へと変わった。そして町村合併で大曲市となったが、私にとっては、というより多くの住民にとっては昔ながらの「大曲市」という地名に捨てがたい愛着がある。

そんな、ごく普通の地方都市にすぎない大曲は、花火大会とともにまったく違う顔に変貌する。花火見物のための桟敷が組まれ、道路規制や屋台の準備がはじまりテレビ局の取材クルーの姿があちこちに見えるなど、浮き立つようなざわめきの街に変わっていく。今年も会場のゲートから雄物川の河川敷につくられた桟敷にたどり着くのに40分もかかるという賑わいになった。しかし一方では、地方都市のご多聞に漏れず、地元若者たちは東京などへ出てしまい、少子高齢化の波が押し寄せている。

夏休み、私が大曲に滞するのは、土地に暮らす人達からみればほんの「束の間」と言うべき短い時間だが、東京で暮し、学びの日を重ねる私にとって、幼いころからの記憶を形づくった大曲は、そして夏の夜の夜空を彩る大輪の花火は、私のころや感性と切っても切れないものになっているのではないと思う。「メディア実践論」の企画を立てることになって気づいたその「仮説」を確かめに、今年はビデオカメラを手に大曲の地に立った。そして街を歩いた。

大曲の「特別な一日」と普通の日、つまり「ハレ」と「ケ」を通して風土と人のつながりについて見つめてみたい、そんな思いを胸に夜空の花火を仰ぎながら立ち尽くした。途中、一時突然の強い雨に見舞われたが、こうした私の思いを冷ますことはなかった。

カメラを通して見つめた「ふるさと」、大曲の夏は終わった。

さて、私の「夏の発見」が、人のころを動かすものになるかどうか、いよいよ制作本番の秋を迎える。



大曲の賑わい



夜空に輝けスターマイン

もっとゆっくり、もっとゆったり・・・
—インドネシア・バンドン 2013年夏

経営情報学部 2年 小島 拓弥

とうとうバンドンにやってきた。インドネシアの首都ジャカルタから東南に200キロ、西ジャワ州の州都だ。標高700メートルほどの高原にあり熱帯にしてはしのぎやすい。多民族国家インドネシアにあってバンドンにはスダ族が多く暮らしている。また、多くの大学や研究機関があることから学園都市としても知られている。さらに、戦後日本が国際社会に復帰する一歩を踏み出した「バンドン会議」で知られる地でもある。そのバンドンへの旅には高校時代に会ったインドネシアの友人との再会という目的があった。

私は過去3回インドネシアを訪れているが、初めてインドネシアに出かけたのは高校2年の11月であった。私が学んだ静岡の高校は2年生になると全員研修旅行に出かける。私はインドネシア行きを選んだ。そこで、現地の高校生に出会った。それから3年、彼らも大学生になっている。「メディア実践論」の企画を考えることになって、当時出会った高校生のその後を追うことを思いついた。彼らがどんな眼差しで日本と日本人を見つめているのか、私たちがアジアの人々と共に生きるとはということなのかを考えてみたいと思った。特に彼らの何人かは日本語を学んでいるということも私の関心を引いた。

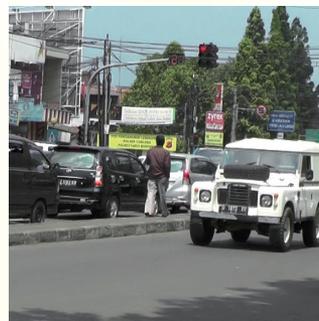
今回再会したのは2人。一人はバンドン市内の大学に通う女子大生、もう一人はジャカルタに出て日本語を勉強している。しかしここで「思わぬ出来事」に遭遇する。私がインドネシアを訪れた時はイスラム教の断食月、ラマダンの時期にあたっていたのだ。そのため彼女たちに会えたのは帰国の4日前。ロケ取材の目算は大きく外れた。普段、宗教について意識することのほとんどなかった私にとってはカルチャーショックというべきものだったが、あらためて多様な文化、価値観のアジアということについて考えさせられた。

バンドンの街に立って多くの発見があった。どの人にも会ってもみんな明るい!

現地でもインタビューした何人かに言われたことは「日本人は静かすぎるネ」ということだった。一般にインドネシア人は穏やかで怒らないことで知られているが、摩擦を避けていわば「防衛本能」からできるだけ静かにしようとする日本人とは異なり、インドネシアの人々は、摩擦や揉め事を起こさないように明るく振る舞う術を心得ているように感じる。穏やかというより心の器が大きいというべきではないかと思う。また、スダ族の人たちは親戚同士で寄り添って住み、家族間の絆がとても強い。普段から周りの人たちと助け合いながら暮らすことが日常化しているのだ。

バンドンを訪れて垣間見たインドネシアは、私たちにもっと心にゆとりを持って、ゆっくり暮らすことを考えてみてもいいのではないかと語りかけているように感じた。それは、現在の日本と日本人のあり方、さらには私たちがアジアと共に生きるということへの大事な示唆と言えるのではないかと思った。

私の4度目のインドネシア、バンドンでの「ひと夏の体験」だが、問題は我が企画の制作だ。こればかりは「もっとゆったり」とはいかない。なんと悩みの秋だ。



バンドンの街の風景



高校時代に会ったインドネシアの友人との再会

多摩大学への入学時と今の自分

多摩大学グローバルスタディーズ学部3年 御影 秋人

私にとって多摩大学グローバルスタディーズ学部は第一希望の大学であった。選んだ理由は、少人数でインタラクティブに英語で幅広い学問を学べること、学生と教授や職員の距離が近く Native Speaker の教授が多いことなどに強い関心を持ったからだ。入学時に私は大学生生活の4年間をただ楽しむだけではなく、高い英語のコミュニケーション力を付けたいと思った。

入学して4月に TOEIC 試験を受けたが、TOEIC の点数は280 だった。そして、AEP (Academic English Program) 英語による集中講義が始まった。最初は英語を聞くのに慣れなかった。でも、3か月間経った時、私は英語に慣れてきたと感じた。教授が毎回の授業の際に出してくれた課題や学習の材料のおかげと思っている。この大学に入り、AEP や各授業でプレゼンテーションをすることが多かった。それによって私は、自分の意見を人前で言えるようになっていった。恥ずかしがり屋の性格が克服され、積極的な行動に慣れた。

2年生が終わり、3年生になる春休みの時、今後の大学生活について自分なりに考えた。2年生までに単位を88単位取得することが出来た。しかし、自分の身に付くまで深く理解できた授業は少ないと感じた。英語力もまだまだ足りないと感じた。このまま3年生になるのは、駄目だと思い、私生活

を変化させた。3年生になり、毎日少しでも英語に触れる時間を増やした。そのために、新聞、本、マガジン、ニュース、TED TALK を活用し、また同様に知識を増やすために大学の図書館を利用し多く本を読むようにした。

そして今、私はモナシュ大学に1ヶ月の短期留学中である。留学期間は1ヶ月と短い、さらに英語力をアップさせたい。また様々な異文化を体験したい。日本に帰る1ヶ月後に少しでも成長した自分を両親、教授、友人達に見せられるように努力したい。モナシュ大学での英語の授業のクラスメイトは日本人が少なく、ブラジル人、中国人、イラン人、サウジアラビア人などの仲間と学んでいる。また授業後も、ブラジル人のクラスメイトと勉強をしたり、英語を使って会話をしたり、週末に遊びに行ったりしている。モナシュ大学にいる学生は皆、必死に勉強しているなど感じる。そういう光景を見て、私は最初、圧倒されて刺激を受けた。いま、充実する日々を送ることが出来ている。まだ二週間ほどしか経っていないが、この生活がとても気に入っている。残りの3週間をもっと充実したものになりたいと思い頑張っている。今のまま単位を取り続ければ、3年生で128単位が取り終わるので、私は来年再び長期留学したいと思っている。そのためにさらに英語力を高めていくと同時にその他の知識力も増やしていきたいと考えている。



モナシュ大学のクレイトンキャンパスでブラジル人、中国人、サウジアラビア人でサッカーをしたとき



モナシュ大学の休憩ルームでクラスメイト(ブラジル人、中国人)



クラスメイト(サウジアラビア人、中国人)での川下りのとき